

=====

◇植物ストレス科学研究ネットワークメールマガジン vol.161◇

2023年12月8日号(第161号)

=====

-----◇◆ INDEX ◆◇-----

1. 第39回資源植物科学シンポジウム・第15回植物ストレス科学研究シンポジウムのお知らせ
2. 令和6年度資源植物科学研究所共同研究課題募集のお知らせ(再送)
3. 気になった科学分野の本の紹介
4. 最近の研究成果について
5. 投稿のお願い
6. 編集後記

-----◆◇◆◇-----

1. 第39回資源植物科学シンポジウム・第15回植物ストレス科学研究シンポジウムのお知らせ

令和6年2月26-27日に倉敷市芸文館にてシンポジウムが開催されます。今回のテーマは「植物科学の基礎から応用まで」です。参加ご希望の方は令和6年2月10日までに下記サイトからお申し込み下さい。プログラムも掲載されています。

<https://www.rib.okayama-u.ac.jp/information/20231121-1/>

2. 令和6年度資源植物科学研究所共同研究課題募集のお知らせ
先月号でもお知らせしていますように、当研究所では来年度の拠点・共同研究の課題を公募しております。一般研究の応募締めきりは令和6年1月12日ですが、重点研究と若手奨励研究は12月13日が締めきりとなっています。

詳細は、HPをご覧ください。

<https://www.rib.okayama-u.ac.jp/collaboration/collaboration1/>

3. 気になった科学分野の本の紹介 (第8回)

今回ご紹介するのは「新・生命科学シリーズ 気孔 -陸上植物の繁栄を支えるもの-」(島崎研一郎 著, 裳華房)です。

同出版社からは 新・生命科学シリーズとして、これまでに動物、植物、遺伝子、脳科学の分野で14刊発行されています。植物科学分野では、植物の成長(西谷和彦 著・2011年発行)、植物の系統と進化(伊藤元己 著・2012年発行)と植物の生態(寺島一郎 著・2013年発行)があり、「気孔」は2023年8月に発行された、最新刊で

す.

著者の島崎先生は、世界でも指折りの気孔研究者です。ご自身のこれまでの研究はもちろん、過去から現在までの気孔研究の情報が網羅されています。例えば、気孔（孔辺細胞）の構造から進化、開閉のメカニズム、植物ホルモン応答や受容体、気孔運動に関わるイオン輸送体など、「気孔」のあらゆる現象について、150頁にわたり解説されています。ここまで「気孔づくし」の教科書は、初めてではないでしょうか！？

通常、植物生理学関連の教科書には、気孔に関する項目は数行から数頁しか記載されていません。それでも十分なのかもしれませんが、より詳しい気孔の現象を知りたいと思われた方は、この本を読むと満足できると思います。また、気孔研究にはそれほど興味のない方にもお勧めできます。

本文の内容に加えて、関連雑学が記載されたコラムも充実しています。その一つに載っている、気孔研究分野の大御所お二人の若かりし頃の写真が個人的には貴重に思えます。

皆様もまずは一度、手に取ってご覧になってください。

4. 最近の研究成果について

Wang, P., Yamaji, N., Mitani-Ueno, N., Ge, J., Ma, J.F.
Knockout of A Rice K5.2 Gene Increases Ca Accumulation in The Grain.
Journal of integrative plant biology, 10.1111/jipb.13587
(2023)
Doi.org/10.1111/jipb.13587

Cornejo, C., Otani, T., Suzuki, N., Beenken, L.
Cryphonectria Carpinicola Discovered in Japan: First Report of The Sexual State on Carpinus Tree.
Mycoscience, 64(5):123-127 (2023)
Doi.org/10.47371/mycosci.2023.07.001

Kato, Y., Kuroda, H., Ozawa, S., Saito, K., Dogra, V., Scholz, M., Zhang, G., de Vitry, C., Ishikita, H., Kim, C., Hippler, M., Takahashi, Y., Sakamoto, W.
Characterization of Tryptophan Oxidation Affecting D1 Degradation By Ftsh in The Photosystem Ii Quality Control of Chloroplasts.
eLife, 12:10.7554/eLife.88822 (2023)
Doi.org/10.7554/eLife.88822

5. 投稿のお願い

本メールマガジンやWebサイトでは、植物ストレス科学の研究成果や研究に関する情報の共有を目指しています。

(<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/pssnet/>)

PSSNetメンバーの皆様の最新の論文、関連集会やセミナーの案内、人材募集などの共有可能な情報の投稿をお待ちしております。

ご希望の方は、pssnet-admin@okayama-u.ac.jp 宛に情報をお送りください。

また、メーリングリストへの情報提供も随時受け付けております。セミナーや講演会の開催など、お急ぎの情報は下記宛てにお送り下さい。

pssnetml@okayama-u.ac.jp

(お送り頂く際には、PSSNet に登録しているメールアドレスからお願い致します)

6. 編集後記

2023 年も残すところ 3 週間となりました。個人的には今年の漢字を一文字で表すと「暑」ではなかったかと思っています。12 月に入り、朝の放射冷却で車のフロントガラスの結露や霜をとり、通勤路の曇ったカーブミラーを気にしながら細い路地を通して通勤しなければならなくなりました。倉敷にもいよいよ冬の到来です。

つい最近、今年の春にホームセンターで購入した植木鉢のチャノキに花が咲いていました。編者は知らなかったのですが、チャノキの花は秋から初冬に咲くのですね。いろいろ忙しくしていて気づかなかったのですが、ふと見たら白いきれいな花が咲いていて、うれしくなりました。植物は部屋の中でも季節を感じているのですね。

今年は秋を通り越して急に冬がきた感じがします。急な寒さで体調をくずしがちなので、皆様も風邪やインフルエンザなどにお気をつけください。そして、よいお年をお迎えください。

「植物ストレス科学研究ネットワークメールマガジン」

■発行日 2023 年 12 月 8 日

■発行元 岡山大学資源植物科学研究所

植物ストレス科学研究ネットワーク (PSSNet) 委員会

■WEB サイト <http://www.rib.okayama-u.ac.jp/pssnet/>

メールマガジン登録変更・解除の手続きは

<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/pssnet/Registermember.htm>

をお願いします。

(このメールは岡山大学職員が配信しています)

pssnetml mailing list

pssnetml@okayama-u.ac.jp